

LAN アキュライザーの活用(6) —アナログと配信音源再生(6)—

1. 始めに

前報(5)に引き続き、LAN アキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、アナログと配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのは、リヒテルによるラフマニノフのピアノ協奏曲第2番です。

アナログ盤

ドイツグラモフォン MG 2197

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調 op. 18

スヴィヤトスラフ・リヒテル (ピアノ)

スタニスラフ・ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー

STAGE+

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調 op. 18 (アルバム)

スヴィヤトスラフ・リヒテル (ピアノ)

スタニスラフ・ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー

3. LAN アキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアキュライザーの導入\(33\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

アナログ盤の再生においては、フォノイコライザーのイコライザーカーブはTELDECを選択し、位相反転させています。STAGE+では、Brooklyn DAC+においてアナログ盤と同様、位相反転させています。

アナログ盤の再生では、ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニーのメランコリックなロマンチシズムの演奏をバックにリヒテルの円熟したピアノリズムが流れ、第3楽章ではリヒテルの力強い打鍵が爆発します。前報(1)に述べたスピーカーアキュライザー周りの変更やケーブルチューナーの効果で表現のリアリティが向上しています。

STAGE+再生では、同様にメランコリックなロマンチシズムの表情や力強い打鍵のインパクトも十分です。

敢えて両者の違いを指摘するとすれば、アナログ盤は響きが豊かで、STAGE+は切れ味が特徴です。

4. まとめ

アナログと STAGE+双方に関する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクライザーの装着の効果で、アナログに近づいた印象です。

以上